

学校の詩

うた

学校の教育目標

自律貢献

文責：校長 藤井浩彦

◆3学期のスタートにあたり

3学期は、最強寒波が襲来し、一面「雪」のスタートとなりました。始業式では、次のようなお話をさせていただきました。

Aさんは、家からはるか遠くの鉱山で金が出るといううわさを聞きつけました。Aさんは、「金を見つけることができればお金持ちになれる」と、自分の土地と持ち物をすべて売り払って、高価な道具を買い込みました。そして、高い旅費を使ってはるか遠くの、金の眠っているであろう鉱山までやってきました。

鉱山に着いたAさんは、せっせと掘り始めました。少し掘れば、金がすぐに見つかると思っていました。しかし、3m掘っても金は出てきません。さらに2m掘りました。それでも金は、出てきません。数日が過ぎ、最初のところから10mほど掘りすすめましたが、金は出てきませんでした。

「これだけ掘って何も見つからないなら、もう金なんて出てこない」と、Aさんは、悲しい気持ちになり、金を見つけることをあきらめてしまいました。そして、掘るために使った高価な道具を安い値段で売って、その場所を立ち去りました。

ところが、しばらく経って、その道具を買ったBさんがAさんが掘った穴を、あと1メートルほど掘りました。すると、なんと「金」が次々に見つかりました。Bさんはそのおかげで大金持ちになりました。Aさんは、あとで、その知らせを聞き、大変悔しがりました。

さて、この話のAさんの教訓（この話の意味するところ）は何だと思えますか？
そうです！たとえゴールが見えず、どんなにつらくても、すぐにあきらめてはいけないということです。

新しい年を迎え、それぞれに今年の目標を立てたことでしょうか。目標に向けて頑張ることは、非常にきついこともたくさんあります。これからの人生においても、様々な困難や苦しい場面がたくさん出てくると思えます。そんなとき、常に、「あともう少し！」と思い、粘り強くやり抜く力が大切であるということです。そのことによって、夢や目標が実現していくのだと思えます。

人類史上最高の発明家、トーマス・エジソンもこんな言葉を残しています。
『人間の最大の弱点は、途中で諦めることだ。成功するための最も確実な方法は、常に「あともう少し」と頑張ることである』

今年の皆さんの「頑張り」に期待しています！



【表彰式の様子】

「あともう少し」の頑張り、スポーツ等の世界でもとても大切なことです。あと少しの練習が苦しいときや接戦になったときの粘りや頑張りを生み、それが勝利へとつながります。勉強でも仕事でも同じ事です。

左の写真は、福岡県アンサンブルコンテストで銀賞を獲得し、2月にある九州大会出場を決めた吹奏楽部二名の表彰の様子です(一名は欠席)。彼らもきっと、「あともう少し」と練習に励んだからこそ結果だと思えます。3学期も子どもたちのたくさんの頑張りや笑顔が見られるよう心から期待しています。御陵中HPにも載せていましたが、今年も保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、御陵中職員一同、「日々最善」で精一杯頑張ります！どうぞ、よろしく願いいたします！

『今を精一杯に生きること』

校長コラム

2021年がスタートして約2週間が経とうとしています。そんな中、新型コロナウイルスの猛威は止まらない状況です。首都圏の緊急事態宣言をはじめ、福岡県を含めた他府県にも宣言が発出されるとの報道もありました。今こそ人々が一丸となって、ウィルスと戦っていかねばいけません。そして、何よりこんなときだからこそ、人を思いやることが一番大切なのではないかと思います。

新年早々、大変な状況ではありますが、その中で「今できること」を考え、「どのようにしたらできるか」と知恵を出し合い乗り越えていきたいと思えます。

昨年末に、ジャパネットたかた創業者の高田明さん（現 A and Live代表取締役）の著書『伝えることから始めよう』を拝読しました。この本には、高田さんの非常に前向きで行動的な生き方、そして「相手にしっかりと伝わるようにいかに伝えるか」にこだわってこられたかがよくわかるように書かれていました。

高田さんは、25歳で家業の写真館の手伝いをし、37歳で独立され、25年が過ぎるときには、売り上げが1500億円を超えるまでの大きな会社にします。しかし、それは高田さんの並々ならぬ努力のおかげであるということがよくわかりました。自分で日本中を飛び回り、「カメラのたかた」を様々なアイデアで発展させていきます。ジャパネットたかたと言えば、今こそ「テレビショッピング」では誰もが知るところですが、はじめはチラシ配付、そしてラジオショッピングがスタートなのです。それもすべて様々なところへ、諦めることなく何度も足を運んで、その道を開拓していったのです。この本の中に書かれていた高田さんの言葉で心に残っているものを紹介します。

- ◆私は大きな会社をつくろうとか日本一の会社を作ろうとか、そんな夢を抱いたり、目標を持ちたりしたことは一度もないんですよ。毎日毎日、その日しなければならぬこと、その日できることを、一生懸命、自分の力の300%を注ぎ込んで走り続けてきた。その日、そのときをただ「今を生きてきた」。それだけだったんです。
- ◆「今を生きる。過去にとらわれない。未来に翻弄されない」。これが本当に大切なことだと思うのです。カナダ出身の有名な精神科医、エリック・バーンという方も言っておられます。「過去と他人は変えられない。けれど、自分と未来は変えられる」。そして、未来と自分を変えられるのは、他ならない自分です。人も企業も自分が変わらないと誰も変えてくれません。
- ◆目の前のことを一生懸命やっていれば、自然と次の課題が見えてくる、ということなんです。次に何をすればいいか見えないということは、まだ一生懸命じゃないのかもしれない。毎日一生懸命に今を生きていれば、ジャンプアップできる瞬間がやってくるんです。
- ◆できない理由を考えるのではなく、どうしたらできるかを考えて、できることはなんでもチャレンジしたんです。
- ◆私は、やらなかった失敗はあっても、一生懸命にやった失敗はない。・・・私は、失敗というのは一生懸命にやらなかったことだと思っています。一生懸命やって結果が出なかったときには、失敗ではなく「試練」という言葉を使います。そういう試練を乗り越えて、人も会社も大きくなっていくのではないのでしょうか。
- ◆コミュニケーションで最も大事なことは何だと思われませんか？私は「伝えること」ではなくて「伝わること」だと思います。伝えつつもりではだめなんです。
- ◆伝える相手を意識する。目で伝える。身体で伝える。
- ◆私はできないと決めているのは、その人自身だ、やろうとする前から、できないと決めつけていては何もできないと思えます。

高田さんは、大学卒業後はネジ製造機械メーカーに就職し、アメリカやヨーロッパでの仕事もされていたそうです。英語も大変勉強され堪能だったこと。また、自分が使ってみてよいものだけ売るという常「お客様目線」で商売をされてきました。2015年に会社を息子さんに任せ退任されてから、すぐに自分の会社を設立され、次のチャレンジをされます。V・ファーレン長崎というサッカーチームの社長を務め、経営再建のために大変大きな仕事をされたのです。「どんなことがあっても諦めない姿勢」、「できない理由ではなくどうしたらできるかを考えること」そして、「伝えることと同時に、伝わるように」何より、「その日できることを精一杯に今を生きること」を大事にされてきた高田さんの生き方に、私が学ぶべき事がたくさんあると実感しました。

